

# I . 論文様式(章立て・体裁)

全体構成(要約→目的→方法→結果→考察→まとめ→今後の展望)が明確で、論文様式としてほぼ完成しています。

ただし、体裁の統一(番号・フォント・字下げなど)を整えるとさらに見やすくなります。

項目	現状	修正提案
フォント・サイズ	本文や図表で混在(MS 明朝・ゴシック)	「本文: 10.5pt 明朝」「見出し: 11pt ゴシック」「図表: 9pt 明朝」に統一
章番号	「4. 吸光度の測定について」「(1)予備実験」など全角数字	半角数字で統一(例:「4. 吸光度の測定について」)
段落	字下げなし箇所あり	各段落の冒頭は全角 1 字下げ
ページ番号	なし	フッター中央にページ番号挿入
見出しの間隔	章タイトルが詰まり気味	各章タイトルの前後に 1 行空白を入れる
「考察」や「結果」のタイトル	「考察」小見出しが混在	「4. 結果と考察」として整理し、見出しのレベルを統一(中見出しに(1)(2)(3)…)

## II . 図表・グラフ・単位の表記

図やグラフの数が多く、視覚的に理解しやすい構成です。

ただし、重複・番号のずれ・軸ラベルの欠如が散見されます。

問題点	修正方法
図・グラフ番号の重複	「グラフ 1」「グラフ 2」など同一番号が複数箇所に出現。→通し番号に修正(例: 図 1～図 11)
図・グラフタイトル位置	図タイトルが上・下で混在
軸ラベル・単位	吸光度グラフの軸名なし
凡例・説明不足	各グラフに説明が少ない
単位表記	$\mu$ mol/L, mL, °C, nm など全角混在
図中のフォント	ばらつきあり
写真のキャプション	「図-4」など異体字あり

💡 グラフの「独立性」(本文を読まなくても内容が理解できる)を意識し、タイトル＋軸＋単位＋凡例を必ず記載する。

## Ⅲ. 参考文献の整備(統一表記)

出典数が多く、信頼性の高い文献(学術誌・先行研究)を引用しており非常に良い。  
ただし、書式の統一・参照日の書き方・句読点の統一が必要です。

SSH・科学系学会で用いられる「著者名(発行年)タイトル 出典 URL(参照日)」形式に揃えます:

### 【参考文献】

- きなりの (2024) 「酵素シロップの作り方」 <https://kinarino.jp/cat4/8523> (参照日: 2024 年 10 月 24 日)
- 天然生活編集部 (2024) 「煮沸の仕方」 [https://tennenseikatsu.jp/\\_ct/17452285](https://tennenseikatsu.jp/_ct/17452285) (参照日: 2024 年 10 月 24 日)

### ◇ ポイント:

- URL+参照日は最終括弧で統一。
- 学術誌は巻(号)・ページ番号を明記。
- 校内論文も正式出典として扱う。
- 「『』」より「」に統一。

## Ⅳ. 英数字・化学記号・句読点の統一

項目	修正指針
英数字	すべて半角(例: 5 °C、20 $\mu$ mol/L、25 °C)
化学記号	DPPH、EtOH、Na <sub>2</sub> CO <sub>3</sub> など半角英数+下付き数字使用
記号	「～」ではなく「~」(全角波ダッシュ)
句読点	「、」「。」「」に統一(「,」「.」「」は禁止)
括弧	英数字や単位内は半角、文章中は全角
番号書式	「(1)」「(2)」ではなく「(1)」「(2)」に統一

## V. 本文表現の微修正ポイント

現在の記述	修正版例	理由
「発酵シロップにしても抗酸化力がある」	「発酵シロップにしても抗酸化力が保持されている」	科学的文体に整える
「値が低くなっていた」	「吸光度が低下した」	定量表現に
「抗酸化力が強い」	「抗酸化能が高い」	専門用語に統一
「スダチを凍らせた」	「スダチを凍結処理した」	実験的表現として自然

# VI. 最終チェックリスト(様式完成版用)

チェック項目	状態
フォント・段落・章番号統一	<input type="checkbox"/>
図表番号の通し番号化・位置統一	<input type="checkbox"/>
軸・単位・凡例の明記	<input type="checkbox"/>
化学記号・単位の半角統一	<input type="checkbox"/>
文中引用の挿入(著者名, 年)	<input type="checkbox"/>
参考文献の統一フォーマット化	<input type="checkbox"/>
日本語句読点「、。」に統一	<input type="checkbox"/>
要約・本文の間に 1 行空白	<input type="checkbox"/>

---